

研修名	新任者のための精神保健福祉基礎研修Ⅱ 「精神障害者を地域で支えるケアマネジメントとは」
講師	社会福祉法人 手をつなぐ育成会 相談支援事業所 すてら 事業所長 佐藤 みずほ 氏（精神保健福祉士、介護支援専門員、保健師）
開催日時	平成30年9月7日（金）13:30 ～ 17:00
開催場所	総合保健福祉センター（アシスト21）2階 講堂
参加者数	63人（相談支援専門員、生活支援員、指導員、保健師、精神保健福祉士など）
研修の内容等	<p>前半は講義（ケアマネジメントのサイクル、サービス等利用計画の評価、アセスメントの目的、記録の意義、話の聴き方、自立の考え方）について学んだ。後半は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」について、本庁精神保健福祉課から説明を行い、その後グループワーク（事例検討、発表）を行った。社会資源としてのサービスはもちろんのこと、人的資源を持つこと、顔の見えるネットワークが、利用者の豊かな生活へつながる。講師の経験に基づいた講義は、参加者にとって有意義な研修の機会となった。</p> 
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでは、皆さんの知識や情報が豊富で勉強になった。 ・色々な施設や事業所の方と話すことができ、情報交換できて良かった。 ・グループワークを行うことで、本人のストレンクスから支援方針が立ちやすいことがわかった。 ・精神障害者のケアマネジメントについて、全く知識がなかったので、本日はとても参考になった。 <p>グループワークでは、それぞれの立場で話ができ勉強になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の業務にいかせるような話を聞けたことがすごく大きかった。参加できてうれしく思った。 ・働き出してまだ数ヶ月で、日々勉強だが、改めて、一人の人を尊重する大切さ、支援者側の「かた」にはめるのではなく、その人らしい人生を送るための支援をする大切さを学んだ。 ・事例検討では各専門職の方々と話し合い、非常に良い刺激となった。地域のことをもっと知る必要があることを感じた。 ・仕事をする上で、“聞く”ことはとても難しいと感じている。今日学んだ話で“聞く”ことを思い出して、その言葉の裏にある想いに気づけたらと思う。 ・はじめてのグループワークで、みなさんと話せて楽しく有意義だった。今後も連携をとっていきたい。